

万年筆から自然、地域、人を感じる

宮野 周

万年筆がアナログ的な感覚を楽しめる筆記具として人気を集めています。万年筆には筆跡の変化や低筆圧の「心地よさ」があります。万年筆インクといえば実用性を求めて、ブラック、ブルーブラック、ブルーが一般的でしたが、近年は「インク沼」^{*1}という言葉が定着するほど、豊かなカラーバリエーションに魅了される人たちがいます。例えば、日本の四季折々の情景を表した「色彩雫（いろしずく）」（パイロットコーポレーション）や、神戸の景色・地域愛に溢れるご当地インク「Kobe INK 物語」（ナガサワ文具センター）があります。

こうした色とりどりの万年筆インクには、色の鮮やかさや筆跡の濃淡の美しさがあります。ではなぜ、今そうした「万年筆」や「インク」の沼に入る人が多いのでしょうか。そこに色の豊かさとともに自然や地域愛、人間らしさを感じるからではないでしょうか。

もちろん“月夜”“冬柿”といったインク名に込められた「自然」「和」の色のイメージ戦略もありますが、何よりカラーバリエーションの豊富さは「遊び心」とともに「嬉しい」「楽しい」「気持ちや気分が上がる」などのポジティブな印象を与えてくれます。また「字は人を表す」「書は心画なり」というように、例えば、綺麗な文字を書く人は「知的」「上品」「清楚」...といった人柄や印象を我々は受け取ります。そうした効果は「ポジティブ・ハロー効果」^{*2}といわれ、とくに万年筆による筆跡（色・形）からは「その人らしさ」あるいは「人間らしさ」を感じているといえます。みなさんは手書きの文字から何を感じますか。



万年筆インク“色彩雫”

^{*1}万年筆インクに心酔（浸水）してしまい、まるで沼にはまったように抜け出せなくなってしまう状態のこと

^{*2}良い全体的な印象や優れた一つの印象から、その他の評価も高くなってしまうこと

【参考文献】

『日本の美しい情景と季節の移ろいを映す色。万年筆カラーインキ「色彩雫（いろしずく）」。』

<https://www.pilot.co.jp/media/story/005.html>（参照2023.7.1）

『Kobe INK物語 色見本 日本語版』

https://kobe-nagasawa.co.jp/system/wp-content/uploads/2010/01/kobeink_mihon_220318.pdf（参照2023.7.1）

宮野 周（ミヤノ アマネ）
文教大学教育学部准教授

今回のトピック ユニバーサルデザインと色 一色に触れる・色を感じる

今回はユニバーサルデザインと色について、アートグラフィーを専門に研究をされている東京学芸大学の笠原広一さんと、北海道CUDOの理事をされているカラーコーディネーターの昆野照美さんにご執筆いただきました。

多様な色覚特性の理解と

マルチセンサリー(多感覚的)な体験の共有へ

笠原 広一

私たちが普段、当たり前に見ている世界の色も人によって様々な見え方をしています。日本人男性の約5%（20人に1人）、女性の0.2%（500人に一人）は、最も多い一般色覚者とは異なる色覚特性を持っています。多数派の一般色覚者の色覚を中心に様々な視覚情報が作られるため、見え方の異なる人は社会的な色弱者となります。そして先天的な特性だけでなく、病気や怪我、加齢によって誰にでも後天的に色覚変化は起こるのです。医療機関や民間団体等の取り組みを踏まえ、自治体がガイドラインを作成するなど、近年、カラーユニバーサルデザインの取り組みが進んでいます。多様な色覚特性を持った人々はもちろん、より多くの人々に利用しやすい配色の考え方を示しています。色の見え方の違いをシミュレートするアプリも多様な色覚の理解を助けます（図1）。色に加え音や触覚、経験も活用してマルチセンサリー（多感覚的）に情報を捉える視点も研究が期待されます（図2）。多様な世界の見え方を共有し、多くの人々が生活しやすい社会・文化環境をつくっていくために、様々な感覚体験を駆使しながらアートやデザインで何ができるか考えてみましょう。

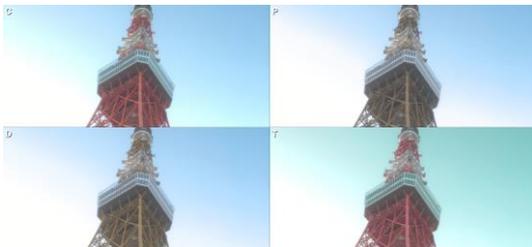


図1(左)アプリを使った色覚シミュレーション
左上:一般型色覚、右上:1型二色覚、
左下:2型二色覚、右下:3型二色覚

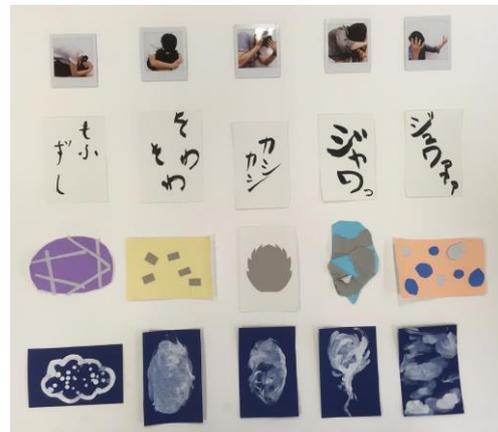


図2(右)マルチセンサリー(多感覚的)に情報を捉える。

【参考文献】

カラーユニバーサルデザイン機構（原案）、岡部正隆（監修）（2022）『色弱の子どもがわかる本：家庭・保育園・学校でできるサポート術』かもがわ出版
市川一夫（2020）『知られざる色覚異常の真実』幻冬社
川端裕人「いろいろな人のいろいろな色覚多様性をめぐって（連載）」集英社学芸の森、
<https://gakugei.shueisha.co.jp/mori/serial/iroiro/001.html>（参照2023.7.6）



プロフィール

笠原 広一（カサハラ コウイチ）

東京学芸大学准教授。A/r/tographyやArts-based Research(ABR)による、自己と他者・社会をつなぐワークショップや探求技法の研究に取り組む。

著書に、Walking with A/r/tography (分担執筆, 2022, Palgrave Macmillan),

Arts-Based Methods in Education Research in Japan (分担執筆, 2022, Brill),

『アートグラフィー 芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法』（編著, 2019,

Bookway）, 『子どものワークショップと体験理解』（単著, 2017, 九州大学出版会）

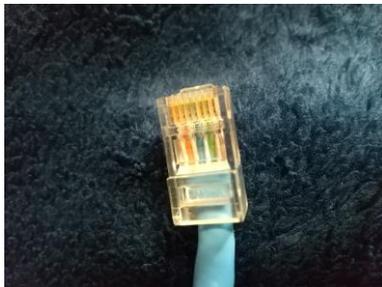
等がある。

会員リレーコラム

「S撚りとZ撚り」

私の夫は赤と緑が見分けにくい特性を持っています。地下鉄の路線図や、選挙速報の政党別の色分けがわかりにくいようです。信号の赤は、LEDになってから見えにくくなったという声も聞きますが、自分は見やすくなったと話しています。

仕事でLANケーブルが故障した際などに、導線を切って調整し、白、橙、白、青、白、緑、白、茶の順番に並べ、コネクタを付けて固定する作業をよく行うようです。つい先日、緑と茶の区別がつかないので、見極める方法はないか聞かれました。困りましたが、よく見ると白の導線とのS撚り（時計回り）が茶、Z撚り（反時計回り）が緑になっており、今のところこの見極め方で問題はないようです。今後色のユニバーサルデザインの考え方が広がることを願っております。



写真：著者撮影

【イラスト引用】滋賀県東北部工業技術センター

https://www.hik.shiga-irc.go.jp/info/instructions/textile_iroha/textile-1/

橋本 実千代（ハシモト ミチヨ）
クリエ・スクール／跡見学園女子大学兼任講師

第3回『色いろサロン』を開催しました

2023年4月28日（金）に、第3回となる『色いろサロン』を開催しました。「“着物と四季”と色”をテーマとし、司会の中島千絵さん進行のもと、名取初穂さんには『和の色で味わう藍の四季』、能口祥子さんには『着物は美しい日本の歴史』についてお話しいただきました。

<参加者からのご感想>『藍染の色、ほか伝統色のお話はとても美しく癒されました。』『着物の歴史や季節の花などの自然を取り入れた色などのお話を聞き、時間があっという間に過ぎました。』『ご登壇する方々がとても楽しそうに、嬉しそうにお話しされているのが、とても良いなと思っています。』

第4回は8月4日(金)20：00～21：00に開催予定です。詳細は次ページをご覧ください。たくさんのご参加、お待ちしております。

オンラインセッション 第4回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第4回を開催いたします。今回はテーマを『ユニバーサルデザインと色 一色に触れる・色を感じる一』として、執筆者の方々に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方々へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2023年8月4日（金） 20:00～21:00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・ Color Circle vol.04のトピック執筆者によるお話

笠原広一さん

昆野照美さん

手塚千尋さん（司会）

・ トピックに関する質疑応答

・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/YFH74wLC9KXMGjAh9>

参加申込・参加費納入期限：2023年8月2日（水）

⇒8月3日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※8月3日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局までご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局

ohuchi.hiroko@jcri.jp（大内） または sasaki.mikuko@jcri.jp（佐々木）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、名取初穂、宮野周、熊谷佳子、大内啓子、佐々木三公子）

